



旧石山南小に巨大壁画

今年3月に閉校した札幌市南区の石山南小(石山2の8)の正面玄関に、縦約3・5メートル横約15メートルの巨大壁画が飾られ、地域のシンボルになっている。同校に隣接する石山中の美術部の生徒が制作し、笑顔で集う

石山中美術部制作

子どもたちや石山地区の風景などが色鮮やかに描かれている。地域住民から「小学閉校で寂しさが漂う地域に元気を与えてくれる」と評判だ。

(柳沢郷介)

石山南小は1981年開校。

児童数減少を受け、石山小(南区石山1の4)と統合し、児童は4月から石山小の敷地内に新しく建てられた石山緑小に通っている。石山南小の跡地については、民間に売却することが決まっているが、グラウンドの擁壁の一部に傾きが見つかり、売却を2〜3年延期することとなった。

「閉校校舎がそのままなのはあまりにも寂しすぎる。防犯上も好ましくない」。地域住民の声を受け、市教委が5月、石山中美術部に元の正面玄関の場所に張ったベニヤ板に、絵を描くよう依頼した。

同校美術部は1〜3年生21人。依頼を受け、部員のアイデアをまとめる形で壁画のデザインを決めた。7月中旬から現地での作業を始め、9月中旬に完成

住民「地域に元気くれた」

した。壁画には、中央に大描かれた石山南小と石山中がかかり、笑顔の子どもたち豊平川や石山神社といったの名所、かつて地域を走った山溪鉄道などがあしらわれる。

部長の河井すずねさんは「制作中、地域の人に声けてもらい励みになった」。天下での作業を振り返る。に引退した元部長の衣斐優人(3年)は「中学校生活大成。地域の役に立てたこと誇りに思う」と満足そうに話した。

石山南中央町内会は、完了壁画を10月に回覧板で紹介した。小川洪充会長(75)は「を明るくしてくれる素晴らしい絵。前を通るたびに幸せになる」と感謝している。